

「RO膜を用いた浄水技術の最前線」

例えば固体と水、水と汚れを分離する「分離膜」は、様々な材質で作成が可能であり、用途も多岐にわたります。

そのうち、水から溶存物（例えば塩）を分離するRO（「Reverse Osmosis(逆浸透)」）膜は、日本が世界シェアを握る膜であり、高純度の水が必要な産業や、水ストレスの高い沿岸の都市における飲用水に関連した導入、さらには廃水のリサイクルなどへの利用が進んでいます。RO膜は、造水に多く利用されていますが、膜の性能向上等に伴い、より様々な用途に利用可能であるポテンシャルを持っています。

そこで、今回のセミナーでは、本学奥田准教授より、排水処理等、チャレンジングな原水に対するRO膜の利用に関する現状や研究例を紹介いたします。また、県内トップのRO膜製造メーカーである日東電工（株）での膜製品や使用例について紹介いただき、さらに製膜研究の最前線などを神戸大学の新谷教授よりご講演いただきます。

本テーマにご関心のある方々のご参加をお待ちしております。

【日 時】 2019年3月5日(火) 14:00～17:00 (受付開始 13:30)

【場 所】 龍谷大学 瀬田キャンパス RECホール
(大津市瀬田大江町横谷1-5 JR琵琶湖線「瀬田」駅よりバス約 8分)

【申込方法】

裏面申込書をFAXいただくか、E-mail (rec@ad.ryukoku.ac.jp) にて
必要事項（裏面参照）送信、または、こちらのサイトからお申込ください →

(<https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201808/>)



【参加費】 無料

プログラム

開会の挨拶 (14:00～14:10)

1 「RO膜処理プロセスと膜ファウリング制御」 (14:10～14:50)

龍谷大学 理工学部 環境ソリューション工学科 准教授 奥田 哲士

2 「RO膜を用いた海水淡水化および下水再利用における水処理プロセス」 (14:50～15:30)

日東電工株式会社 メンブレン事業部 開発部 主事 川島 敏行 氏

< 休 憩 15:30～15:40 >

3 「膜素材と製膜および最新研究動向に関する紹介」 (15:40～16:20)

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 特命教授 新谷 卓司 氏

4 名刺交換会 (16:20～17:00)

■ 2019.3.5 開催 (2018年度 第8回 REC BIZ-NET研究会)

参加申込書 締め切り： 2019年3月1日 (金)

龍谷大学REC宛 (送付状不要) FAX: 077-543-7771

申し込みの際は、必要事項をご記入の上、FAX (送付状不要) でいただくか

E-mail (rec@ad.ryukoku.ac.jp) またはこちらのサイトから申してください。→

(<https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201808/>)



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷エクステンションセンター



会社名			
所在地	(〒 -)		
TEL		E-MAIL	
所属		役職	
氏名			
所属		役職	
氏名			

※1組織で3名以上ご参加される場合、お手数ですが本用紙をコピーしてお申し込みください。

※記入いただきました個人情報、本学プライバシーポリシーに基づき、厳重に管理いたします。(龍谷大学 龍谷エクステンションセンター)

<講演概要>

1 「RO膜処理プロセスと膜ファウリング制御」

龍谷大学 理工学部 環境ソリューション工学科 准教授 奥田 哲士

水処理分野で用いられている各種の膜について、他のプロセスとの比較や位置づけを紹介しましたうえで、膜ファウリングを中心とした龍谷大学での研究例を紹介します。

2 「RO膜を用いた海水淡水化および下水再利用における水処理プロセス」

日東電工株式会社 メンブレン事業部 開発部 主事 川島 敏行 氏

世界人口が既に70億人を突破し都市部の急速な発展に伴い水不足が進行しており、2030年には世界人口の47%が水不足になる(ユネスコ)といわれています。

水不足の解決の一つの手段として省エネプロセスである逆浸透膜(RO)法が有効と考えられています。

本講演ではRO膜を用いた「海水淡水化」および「下水再利用」の水処理プロセスの取り組みについて紹介します。

3 「膜素材と製膜および最新研究動向に関する紹介」

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 特命教授 新谷 卓司 氏

現在、分離膜を用いた水処理は世界的にポピュラーな方法として幅広く用いられるようになってきました。そこで今回、主に水処理用途に使用されている膜の基礎技術から製膜方法を中心にご説明し、更には最新の研究動向と今後の展望について幅広く紹介します。